



経過報告・質疑

経過報告についての質疑・討論を続けて記載します。

● 貨物関係は春闘はベア0、本部はストをなぜしないのか・現場の声だ。夏季手当1・1ヶ月の回答からストを今やらねば、いつやるのか。

I GRのレール使用料について報道されたが15%のレール使用料を85%に変更し黒字にしたとあった。レール使用料の問題改善を。

夏季手当1・1ヶ月の回答を社員は借金の返済が出来ない状況だ。基本給・手当など削減が強行されようとしている。全国単一組織と

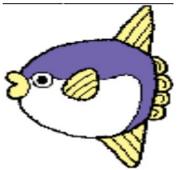


しての全国的な闘いの取組強化を進めよう。JR各社の労働条件改善して貨物の状況も改善を目指していく。

反合理化も職場は外注化・出向者への労働条件は劣悪で賃金は安い。要求改善について直接交渉を要請した。3社へ要請し1社は訪問を受け入れた。出向先の会社へ直接訪問し訴えた。今後も訪問できる会社を多くしていく。

労働協約のあり方へ会社に対してチェック機能は重要だ。エリア本部は労働協約を締結した。その内容について労働組合は法令違反を容認するのか。

NO. 795
発行 13・8月20日
国鉄労働組合新潟地方本部
発行責任者 関川 和彦
編集責任者 教 宣 部



● 組織拡大の分会では、プロパー社員など、さまざまな社員とレクなどいろいろ企画・旅行も参加を呼びかけている。新年会・花見・ボーリング・サッカーなども参加



を呼びかけている。国労加入後は最低1年は責任を持って守っていくこと。国労運動を訴え、分会の取り組みとして活動を強化していくこと。職場要求の闘いと結合して拡大へ取り組んでいこう。

● 工務は1977年全国連絡会の組織が発足した。JR移行して27年が経った。保線関係は、すべて外注化・一部直営以外は外注化が進んでいる。4割近く直営職場が削減されている。委託会社への出向が増加している。業務の拡大は行われているが要員が不足し超勤が多く発生している。技術継承は早急に対策を問われている。昔からの技術的な仕事が継承されていない。

安全問題も非常事態宣言が出されている。本線での触車事故が多発している。職場環境は厳しい状況が続いている。全国と交流を深めて取り組みを強化し運動を進めていきたい。

● 分会活動も青森駅連合分会と交流し深める。拡大の達成・職場で他労組・組合員の悩み不満があった。相手の話をしっかりと聞くこと。そして国労加入を訴え、国労加入につながった。

東労組は自分達の利益だけを追求した運動だ。国労との違いを見えるように訴え活動を進めた。



執行部からの答弁については後ほど発行される「国鉄新聞」で記載されますので、「国鉄新聞」をご参照ください。

経過報告の質疑が終了し、全体で承認されました。その後、一般討論が行われました。

地本の「国鉄新潟」では各代議員からの発言をまとめて記載します。不十分ではありますがよろしくお願いします。



一般討論から

● 3・11東日本大震災から2年半が過ぎて、被災線区の現状はBTRの仮復旧・多くのBTRは一般道を使用している。鉄路復旧を求めBTRを拒否している自治体もある。財政上の問題で遅れている。

地域が鉄路復旧を望んでいる。鉄路は全国につながっていることから要望している。JRの復旧費は135億円、安全確保が困難と判断している。安全・安心を担保に



●貨物の1・1ヶ月の夏季手当回答について説明があったが、国労としてどうなのか、どう闘っていくのか。回答状況から国労としての見解・戦術についてどうなのか。JRの格差をどう無くしていくのか、本部の見解を。

貨物の賃金抑制は正の闘いは単一組織として運動を進めていくのか。

運動を継続している。

組織拡大今年1月・3月に拡大した。新採加入の取り組みや脱退者についても国労加入を呼びかけた。新採者の配属日に歓迎会を開催。分会の組合会議の定例開催・職場活動の活性化を図ってきた。

相手を変えること、つながりを深めていくことが拡大につながっている。組織拡大標語の実践を進めている。

共闘関係地域共闘組織は国鉄闘争で国労を支えてきた。JR採用者は連合がナショナルセンターとされている。地域活動の活性化を考え連合加盟へ。(盛岡)

JAL 争議支援 全国キャラバン行動

日本海ルート 9月～実施

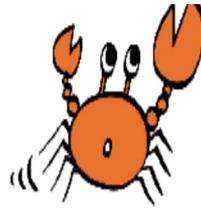
ストを要請してきた、職場はギリギリの状況になってきている。貨物の夏季手当1・1ヶ月の回答を自らのものとして闘って欲しい。

組織拡大組織は自然退職で減少している。毎月、全員が参加できる企画・集会、学習会、レクなど開催し団結と交流を図っている。現場活動の活性化が必要だ。西労から2名の国労加入があった。国労運動を継承していかなければならない。

地域運動JRの利用者・良くする会でアンケート調査を実施し要望を集約した。チラシ配布宣伝行動・署名行動・設備改善など取り組んでいる。JAL闘争支援、並行在来線問題の取り組みも進めている。

法的年金について退職者の会と具体的な闘いを。(岡山)

●組織拡大闘争指令1号が出され支部・分会で意思統一を図った。拡大目標を組織の10%をめざし、職場の労働条件改善の取り組みを訴えていく、会社施策の学習会の実施、他労組・組合員とのつながりを強めていくこと。役員だけでなく、ひとり一人が参加できる体制をつくっていく。現場での組合説明会実施の申し入れを行い実施している。



●職場では業務量が増えて要員が足りない状況にある。今まで発生していない事故が多発している。そのたびにチェック項目が増えている。乗務員の要員が減って乗務時間が増えている。厳しい労働実態になっている。車掌は無人駅が増えて、車掌の業務が増えている。ワンマンカー運



●検修の全面外注化によって委託業務が増えている。(車両所)改善させるため調査し検討、他労組とも共同行動を進めている。学習会の開催や職場でのチラシ配布で他労組へも訴えている。検修業務の改善。本線の車両事故に対して国労の声明は必要なのか。委託された職場を直営に戻すため職場の現状を宣伝していく。

アスベスト問題健康診断手帳の取得を進めている。現場の労働者から病気が発生している。アスベストの学習会の開催・OBへの健康診断・手帳の取得を進めていく。職場で具体的な行動を進めていくこと。健康管理手帳を取得しその後も広く宣伝していく。アスベスト問題について本部へ要請したい。(東京)

次号も全国大会の記事を特集します。

地本教宣部

行が増えて、乗客に対しての対応が多くなった。

国労の組織拡大は重要だ。レクを企画し拡大行動の強化を図っている。国労運動を残し発展させていくことは全組合員で認識している。

共同行動について、国鉄闘争から続いている共闘関係は現在も継続し地方連合に加盟している。考え方には隔たりがあるが、地域のかかわりは重要だ。本部も連合加盟について考え方を示して欲しい。(四国)

●組織拡大3名の拡大があった。安全総点検運動の取り組みから。労働組合の任務と役割は国民課題と国労要求と結合して取り組みを進める。職場では雇用形態が多くなっている。社員間の競争が激化している。

職場での国労の拡大労働条件改善の取り組みなど国労の活動を訴えている。契約社員の待遇改善の取り組み・業務についての責任は個人の責任になっている。組織化について継続的に呼びかけ・訴えていく。職場の雇用内容が違っただけ差別が大きくなってきた。すべての仲間を巻き込んだ取り組みを進めていくこと。その取り組みで国労加入が達成している。JAL争議支援を取り組み運動を進めている。